

06

であいとすまいの間にある居場所 のグラデーションをデザインする

STAY⇔HOME／滞留⇔滞在⇔暫住⇔定住／交流⇔関係⇔定住人口

思い返すと、地域には他にはみられないほど多様な居場所があるまちです。このようなつながりを生み出す居場所は、街角や公園などの共有（公共）空間にいたるまで、ハレとケ、善し悪しも含めて、まちのいたる所で出会いが生まれ、ある意味で濃密なコミュニケーションがとられています。ただ、それは瞬間的に表れる「縁」でもあることから表出化しにくいともいえます。

「縁」が生まれるためには、出会いの場が数多く必要であり、選択可能であることが重要です。誰が計画したわけでもなく必然的に存在している点に注目したいものです。いわば、このまちは「コレクティブタウン」の要素のひとつである、「孤独（主観的）」を受け止めながらも「孤立（客観的）」しない新たなつながりを産む「居場所」を持っているといえます。

05で示した公園のあり方と居場所づくりをはじめ、まちなかに多様で多層の居場所がまちの魅力と安心を作ると考えています。旅人のまちは、繰り返されるSTAYとHOMEの間（グラデーション）をつくる歴史のなかで、新たな文化が積み重ねられてきました。とくに、地域に定住人口や子育て世帯の流入が期待されるなかで、外国人旅行者をはじめ、関係人口をも含んだ新しいつながりの萌芽もあり、あらたな化学反応を起こすメディアとしての可能性があります。そのためには、既存のコミュニティとの関係を含め、新しい出会いと住まいの間にあるグラデーションを埋める試みを展開することが重要だと考えます。

私たちは、このグラデーションには「滞留・滞在・暫住・定住」という住まいや住み方があると考えており、これがこのまちの特長であり、様々な課題を受け止めるシステムであったと考えています。高齢者、障がい者、被保護世帯や労働者をはじめ、外国人、若者、アーティスト、女性、シングルマザーなど、多様で多層の人々が暮らすことができる、これまでにないような「間」を埋める居場所としてのハウジングが求められていると考えています。

たとえば、建物を「棟」ごとの居住者でつなぎなおすコレクティブ住宅、生活支援後に通常の住まいへと移行するためにもう一段階を埋める「ステップハウス」、まちの空き家を活用してまち全体をホテルとして生かす街ごとホテル、そして、一つの住宅で住み続けるだけでなく、ライフスタイルの変化に応じてまちの資源を活用して暮らしなおしたり、家族世帯や福祉施設機能が街なかでサテライト型居住（隣居・近居）するような「地域循環居住」モデルの実現など、出会いと住まいの間にある「居場所」をつくることで、既存システムにある壁を超える「ボーダレス」なまちづくりが展開されると期待しています。地権者や不動産屋、福祉組織や町会等と連携し、地域情報をストックバンクとして運営・マッチングすることも重要です。商店街の空き店舗活用とにぎわい拠点、「ケア付住宅」「ステップハウジング」「サテライト型居住」など、多様な住まいと暮らしの場を創出することで、結果として、木造密集地の課題や違法民泊排除、居住者の孤立などにも対応可能です。

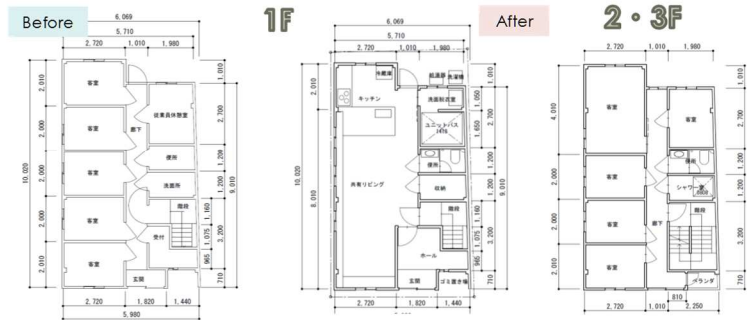
保護支援の「居場所」からの社会自立を促す段階的住まい

STEP House SYOHO-projects

女性と子どものためのグループホーム

こどもの里 事業内容

- 大阪市留守家庭児童対策事業（学童保育）
- 小規模住居型児童養育事業（ファミリーホーム）
- 大阪市地域子育て支援拠点事業（つどいの広場）
- 自主事業《緊急一時保護・宿泊所、エンパワメント事業
訪問サポート事業、中高生・障害児居場所事業等》
- 児童自立生活援助事業（自立援助ホーム）



- 女性+シングルマザー
- 3階シェルター
- 2階二部屋+3階二部屋
- 共同リビング・アイランドキッチン
- 家族に応じたフレキシブルプラン
- 個人クローゼット洗濯機付き
- 可動間仕切り／家具付き
- 保育サービス
- 大学生による設計提案・リノベーション支援
- IKEAによるインテリア支援



こどもの里代表の荘保さんが設置した既存しない社会的住宅の試み。これまで問題を抱えた子どもや子育て世帯の実態を見たとき、またはファミリーホーム施設の対象でなくなった子ども達が社会に出ていく際に、もう1ステップの支援や自立に向けた生活形成が必要であるという切実な実態を受けて生まれたハウジング。本事例では、元簡易宿所の1階を共用リビングとしてリノベーションし、一人用8室、世帯用2室設置。既存制度にのらない世帯の入居実績も多く、このような住宅の必要性は実証済みです。設計は近大建築学部学生、インテリアはIKEAが担いました。

資料© kindai terakawa

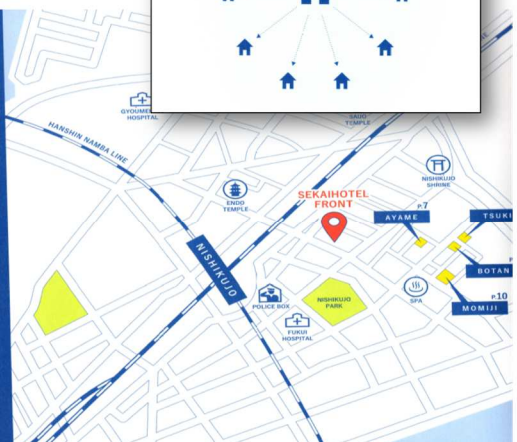
まちをシェアするまちごとホテル（食堂＝商店街・風呂＝銭湯）

まちごとホテル SEKAI Hotel

KUJIRA株式会社企業紹介パンフレットより



街をつなぐフロント
クラウド型ホテル。



西九条駅周辺で、まち全体を使ったホテル事業モデルとして全国的に注目されています。駅前の空き家をホテルのフロントとし、まちなかの空き家を多様なスタイルのホテル室としてリノベーション。部屋ごとに基本的な設備はつきますが、食堂は商店街、風呂は銭湯というように街中の資源や人とつなぐ「まちごとホテル」。自社で工務店も経営し、全国からの出資を受けて展開しており、全国から若者が入社を希望する人気会社に。現在。布施商店街でも実践中。

クジラ株式会社 HP <http://www.kujira-mall.co.jp/company/>